

2 音楽科における展開例

小学校 音楽科 第5学年

(1) 題材 音楽の特徴を感じて

教材 「八木節」 群馬・栃木県民謡 「谷茶前」 沖縄県民謡
 「徳之島の子もり歌」 鹿児島県民謡 「栗野音頭」 鹿児島県民謡

(2) 題材のねらい

旋律の特徴や響きを感じ取り，日本の伝統音楽に親しむことができる。

楽器の音色の特徴を生かしたり，全体の響きを感じ取ったりして表現を工夫することができる。

(3) 郷土素材について

「栗野音頭」は町内の夏祭りや学校行事などで踊る機会が多く，音楽についても子どもたちは旋律をよく知っているので歌ったり，旋律楽器で演奏したりすることができる。また，ここでは音楽室にある楽器を用いて合奏できるように編曲した。さらに，音頭の典型的なリズムであるので和太鼓でおはやしのリズムづくりに取り組ませる。

(4) 学習指導要領との関連 (は重点指導事項， は関連する指導事項)

校種	学年	領域	内 容		八木節	谷茶前	徳之島の子もり歌	栗野音頭	
小学校	高学年	A 表 現	(1)音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏できるようにする。	ア	範唱や範奏を聴いて演奏すること				
				イ	八長調及びイ短調の旋律を視唱したり視奏したりすること。				
			(2)曲想や音楽を特徴付けている要素を感じ取って，工夫して表現している。	ア	歌詞の内容や楽曲の構成を理解して，それらを生かした表現の仕方を工夫すること。				
				イ	拍の流れやフレーズ，音の重なりや和声の響きを感じ取って，演奏したり身体表現をしたりすること。				
			(3)歌い方や楽器の奏法を身に付ける。	ア	呼吸及び発音の仕方を工夫して，豊かな響きのある，自然で無理のない声で歌うこと。				
				イ	音色の特徴を生かして，旋律楽器及び打楽器を演奏すること。				
		(4)音楽をつくって表現する。	ア	曲の構成を工夫し，簡単なリズムや旋律をつくって表現すること。					
			イ	自由な発想を生かして表現し，いろいろな音楽表現を楽しむこと。					
		B 鑑 賞	(1)音楽を聴いてそのよさや美しさを感じ取る。	ア	曲想を全体的に味わって聴くこと。				
				イ	主な旋律の変化や対照，楽曲全体の構成，音楽を特徴付けている要素と曲想とのかかわりに気を付けて聴くこと。				
				ウ	楽器の音色及び人の声の特徴に気を付けて聴くこと。また，それらの音や声の重なりによる響きを味わって聴くこと。				

中学校 音楽科 第1学年

(1) 題材 「郷土の音楽に親しもう」

教材	「沖永良部の子もり歌」	鹿児島県民謡
	「南薩地方の子もり歌」	鹿児島県民謡
	「鹿児島ハンヤ節」	鹿児島県民謡

(2) 題材のねらい

郷土の音楽の特徴を感じ取り、リコーダーで重奏することができる。

郷土の音楽を鑑賞し、それぞれのよさを味わったり音楽の背景となる郷土のよさを感じ取ったりすることができる。

(3) 郷土素材について

「鹿児島ハンヤ節」は、六調子のリズムをもち、県下に広く伝承されている。子どもたちは川内市の祭り等でよく聞いて知っており、中には踊ったことのある生徒も多い。

「沖永良部の子もり歌」は琉球の音階による旋律で、子もり歌らしい優しい感じのする曲である。限られた音域と音による旋律であるのでアルトリコーダーの導入として取り組ませるのに適していると考えられる。

(4) 学習指導要領との関連 (は重点指導事項, は関連する指導事項)

学年	領域	内 容	沖永良部の子もり歌	南薩地方の子もり歌	鹿児島ハンヤ節
第一学年	A 表 現	ア 歌詞の内容や曲想を感じ取って歌唱表現を工夫すること。			
		イ 曲種に応じた発声により、言葉の表現に気を付けて歌うこと。			
		ウ 楽器の基礎的な奏法を身に付け、美しい音色を工夫して表現すること。			
		エ 声部の役割を感じ取り、全体の響きに気を付けて合唱や合奏をすること。			
		オ 短い歌詞に節付けしたり、楽器のための簡単な旋律を作ったりして声や楽器で表現すること。			
		カ 表現したいイメージや曲想をもち、様々な音素材を用いて自由な発想による即興的な表現や創作をすること。			
		キ 音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きを感じ取って表現を工夫すること。			
	ク 速度や強弱の働きによる曲想の変化を感じ取って表現を工夫すること。				
	B 鑑 賞	ア 声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと。			
		イ 速度や強弱の働き及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴くこと。			
ウ 我が国の音楽及び世界の諸民族の音楽における楽器の音色や奏法と歌唱表現の特徴から音楽の多様性を感じ取って聴くこと。					
エ 音楽をその背景となる文化・歴史などとかかわらせて聴くこと。					

(5) 展開(全7時間)

過程	時	教材	主な学習活動	教師の働き掛け
	1	鹿児島ハンヤ節	<p>祭りの雰囲気を感じて聴こう。</p> <p>鹿児島ハンヤ節 楽器の伴奏に気を付けて聴く。 ・ 三味線, 太鼓 音楽に合わせて太鼓のリズムを打つ。</p>	<p>祭りの雰囲気や踊りと音楽とのかかわりを感じ取れるように「おはら祭り」や「ハンヤ祭り」のVTRを鑑賞するようにする。</p> <p>太鼓のリズムについて把握することができるように、地域の方が打っている映像を鑑賞させたり、基本のリズムをカードで提示したりする。</p> <p>ばちさばきを覚えられるように、唱歌(しょうが)を唱えながらばちさばきだけを練習させるようにする。</p>
	2	郷土の子もり歌	<p>鹿児島の音楽の特徴を生かして子もり歌を歌ったり、演奏したりしよう。</p> <p>鹿児島の子もり歌を聴いたり、歌詞で歌ったりする。 ・ 南薩地方の子もり歌 ・ 沖永良部の子もり歌 ・ 種子島の子もり歌 など</p> <p>それぞれの子もり歌の音楽的な特徴や味わいについて話し合う。 ・ 子もり歌としての曲想の共通性 ・ 使われている音階の違いと響きの違い</p>	<p>使われている音階やテンポ、歌詞の内容について理解を深めるために、小学校時の学習を想起させたり、使われている音を調べさせたり、歌詞の方言の意味を説明したりする。</p> <p>それぞれの音階の味わいの違いを音で味わえるように、楽器で演奏して聴いたり、階名で歌ったりする。</p> <p>同じ歌でも、旋律が分かりやすい録音や地域のお年寄りが歌ったものなど様々な音源を活用し、音楽の特徴を味わいやすいようにする。</p>
	3		<p>子もりの歌の感じをもとに、音色や奏法を工夫してリコーダーを演奏しよう。</p>	<p>リコーダーの運指に慣れるように、旋律に使われている音階で旋律模倣や旋律問答に取り組むようにする。</p>
	4		<p>子もり歌の曲の感じを生かした音色や奏法について考える。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>・ 子を思う 優しさ ・ 眠気を誘う 安らかさ</p> </div> <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">関係 付け</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; width: 150px;"> <p>・ ゆっくりとした テンポ ・ やさしい息 づかいやタ ンギング ・ なめらかな 吹き方</p> </div> </div>	<p>このような音色や奏法で演奏したいという思いがもてるように、前時で学習した、子もり歌に込められた思いや曲想を想起させ、テンポや息づかい、タンギングについて考えられるようにする。</p> <p>適度な息の強さやタンギングで演奏できているか、生徒自身が確かめられるように、順番に最初の音をロングトーンさせたり、2小節ずつリレー奏に取り組ませ、適切に助言をするようにする。</p>
	5 ・ 6 ・ 7		<p>音の響き合いに気を付けて、リコーダーで重奏しよう。</p> <p>2, 3のパートをリコーダーで演奏する。</p> <p>グループに分かれて重奏する。</p>	<p>技能や興味・関心の差に応じて、それぞれの子もり歌から取り組む曲を選択できるようにする。</p> <p>また、技能の個人差に応じて段階的に取り組めるように編曲を工夫する。</p> <p>自分たちの響きを確かめたり演奏上の課題を発見したりすることができるように、2グループずつ組をつくり、グループ同士で聴き合う場を設定するようにする。</p>
			<p>グループごとに発表し合う。</p>	<p>グループごとに聴き合う場でおされた課題を集約し、それぞれの発表を鑑賞するときの観点をまとめるようにする。</p>
			<p>全員で合奏し、郷土の音楽のよさについてまとめる。</p>	<p>南北600kmもの広大な県土に、様々な音楽が存在することを楽器や音階の特徴、歌詞に込められた思い伝承の様子等について説明し、郷土の音楽についてのさらなる興味・関心をもてるようにする。</p>
			<p>分かち合う</p> <p>広げる</p>	

